

新春インタビュー

# 大谷翔平選手

# 北の大地で躍動誓う

おおたに・しょうへい◎花巻東  
高校3年生。水沢区姉妹町出身。  
血液型はB型。平成6年7月5  
日生まれ。193㌢87㌢。右投げ  
左打ち。父、母、兄、姉の5人  
家族。愛犬の名前は「エース」。  
昨夏の県大会準決勝では球速  
160㌢を記録した全国屈指の投  
手。プロ野球ドラフト会議で北  
海道日本ハムファイターズに1  
位指名を受け、入団が決定した。

北海道から  
日本一を  
大谷翔平

奥州市から一人のプロ  
野球選手が誕生した。そ  
の名は大谷翔平（花巻東  
高校3年・水沢南中出身）。  
その活躍は全国でも有名  
である。プロ野球ドラフ  
ト会議で、北海道日本ハ  
ムファイターズから1位  
指名を受け、このほど入  
団が決定。日米両球界か  
ら高く評価された「奥州  
の星」。これまでの軌跡  
を振り返りながら、ふる  
さとへの「思い」とこれ  
からの「夢」を聞いた。

（文中敬称略）

# 大谷翔平 その生い立ち

## 野球との出会い

大谷翔平は、奥州市水沢区姉体町に生まれた。父は社会人野球の選手で母はバドミントンの選手。また、兄は野球、姉はバレーボールという根っからのスポーツ一家。そんな環境で翔平はすくすくと育った。姉体小学校時代は、バスケットボール、サッカーなど、さまざまなスポーツを楽しむごく普通の少年だった。

そんな中、小学2年生の秋に野球と出会った。母親同士がバドミントンのチームの友人で、家族ぐるみ付き合いをしていた2学年先輩の佐々木大樹（水沢中出身・現東海



小学校：ホームランの記念ボールを手に笑顔（写真提供：花巻東高校野球部父母会・佐々木健一さん）



中学校：一関シニア時代の豪快な投球フォーム。（写真提供：同上）



高校：県大会決勝でのスイング。打撃でもチームの軸として活躍。



高校：12月9日、北海道日本ハムファイターズに入団を表明。（左・栗山監督、右・父徹さん）

翔平は、当初、アメリカのメジャーリーグ挑戦を表明していたが、日本のプロ野球ドラフト会議において、北海道日本ハムファイターズから1位指名を受ける。翔平は、悩んだ末、日本ハムに入団を決定。12月25日に入団会見を行い、晴れてチームの一員に。次のステージは北海道。翔平の新たな野球人生が始まる。

中学に進むと、一関市の中学硬式野球「一関リトルシニア」に入団。本人が「本当に中身が濃い練習だった。メ

## 厳しい練習の中学時代

手（現埼玉西武ライオンズ）を擁し、準優勝に輝いた花巻東高校。部員の多くが岩手県内出身。甲子園球場で活躍するチームに県民が一体で応援したあの光景。翔平もその中の一人として、大きな感動を

知ったリトル時代であった。東北大会を制し、念願の全国大会へ駒を進める。初戦で敗れはしたが、野球の「楽しさ」を知ったリトル時代であった。

翔平には、忘れられない光景があった。平成21年・春の選抜高校野球大会で菊池雄星投手（現埼玉西武ライオンズ）

「日本一になりたい」という思いを強く持つようになった。そして、高校進学の際、翔平は、忘れない光景があった。平成21年・春の選抜高校野球大会で菊池雄星投手（現埼玉西武ライオンズ）

ニューも豊富で、厳しかった」と語るほどの練習が体の成長とともに心も成長させた。その厳しい練習の成果もあり、中学3年のとき、一関リトルシニアとして初の全国大会に出場を果たした。惜しくも初戦で敗退したが、全国レベルの技術を目の当たりにして、「日本一になりたい」という思いを強く持つようになった。

## 花巻東で全国屈指の投手に成長

「岩手から日本一」を目標に、硬式野球部に入部した翔平は、すぐに頭角を現し、1年春の大会から軸に抜擢される。夏の大会では投手としてマウンドへ。その速球は、全国に「花巻東・大谷」の名を知らしめた。しかし、ケガの影響もあり、登板を控えることも多くなっていく。迎えた2年夏の大会。打撃でチームを引っ張り、自身初の甲子園出場を決める。初戦は強豪・帝京高校。翔平もリリーフとして登板し、150キを記録。

そして、最後の甲子園に挑んだ夏。県大会を順調に勝ち進み、準決勝では、高校生として最速160キを記録した。そして迎えた決勝戦、盛岡大学附属高校の前に敗れ、三度目の甲子園の土を踏むことなく、高校野球生活を終えた。

## 次のステージは北海道

翔平は、当初、アメリカのメジャーリーグ挑戦を表明していたが、日本のプロ野球ドラフト会議において、北海道日本ハムファイターズから1位指名を受ける。翔平は、悩んだ末、日本ハムに入団を決定。12月25日に入団会見を行い、晴れてチームの一員に。次のステージは北海道。翔平の新たな野球人生が始まる。

覚えた。県内外のいくつもの高校から入学の誘いがあったが、翔平は花巻東高校に進学を決めた。

7対8で敗れたが、全国の舞台でその存在感を示した。新チームとなった後も、ケガに悩まされながらも、勝ち進み、3年春、東北第3代表として、春の甲子園・選抜高校野球大会に出場を決める。初戦は、この大会で優勝した大阪桐蔭高校。翔平はエースの藤浪晋太郎投手からホームランを放つもチームは敗退。そして、最後の甲子園に挑んだ夏。県大会を順調に勝ち進み、準決勝では、高校生として最速160キを記録した。そして迎えた決勝戦、盛岡大学附属高校の前に敗れ、三度目の甲子園の土を踏むことなく、高校野球生活を終えた。